

95 草創期理学部化学科の銅製写真刷版

昨年、名大創立70周年（創基138周年）を記念して、写真図録『知と創造の拠点 名古屋大学の歴史』が刊行され、10月17日の記念式典出席者にもれなく配布されました。

大学文書資料室では、編さんにあたって、本部や部局等からさまざまな写真や資料の提供をうけました。中でも、特に興味深い資料の一つが、理学部化学科（化学教室）の銅製写真印刷用刷版です。現在、大学院理学研究科物質理学専攻（化学系）で保管されており、田中健太郎教授の協力により利用することができました。

この写真印刷用刷版（銅版）は全部で18枚あり、1944（昭和19）年から1957年までの卒業記念写真が中心です。本来は、原図をゼラチン膜によって銅板に転写し、銅板にインクを塗り込んで紙に印刷するグラビア印刷用であると思われれますが、今回の『知と創造の拠点』では、銅版をスキヤニングして印刷しました。

これらの銅版は、1940年代から50年代の理学部化学教室の教官や学生たちの姿を今に伝える貴重なものです。例えば、当時の新制第4回卒業生（1956年）の写真（写真2）には、女子学生が3名写っています。戦後すぐの第2回卒業生の男子だけの写真（写真3）と比較すると、女性が大学に本格的に進学しはじめた当時の世相がうかがえます。

これらの卒業写真は、理学部化学教室談話会が1957年に刊行した『化学教室名簿』にも掲載されています。また、卒業記念写真以外にも、化学教室の校舎を写したものもあり、その中には1957年の移転まで化学教室が使用した理学部3号館、4号館の貴重な写真も含まれています。

これらは、当時の化学教室が撮影したものとも考えられますが、こうした撮影方法をとった理由など、当時の経緯はまだ分かっていません。詳しい情報をお持ちの方は、ぜひ大学文書資料室までご連絡ください。



1	2	3
4	5	6

- 1 名古屋大学編刊『知と創造の拠点 名古屋大学の歴史』（2009年10月17日、オールカラー A4版、64頁）
- 2 理学部化学科新制第4回卒業生の写真（1956年）。扉の右横に小さく見えるのが6の「化学教室」の木製看板。
- 3 理学部化学科第2回卒業生の写真（1945年）。戦時下で着用された国民服姿の教官も写っている。
- 4 東山の理学部校舎の写真。手前が3号館、奥の建物が4号館と思われる。現在の工学部8号館・9号館周辺にあった。
- 5 保存されている銅製の写真印刷用刷版。
- 6 現在も理学研究科で保存されている化学教室の看板。